

ヤナギシリジロゾウムシ

ポプラやヤナギの幼木や若木の幹や枝に直径5mmほどの穴が開き、木くずが出る。樹皮を剥がすと脚のないイモムシ（幼虫）がいる。最大長約13mm。体は白から黄色。頭は茶色。

食害により木が折れたり、樹勢が衰える。



1. 被害（左、外観；右、樹皮を剥いだところ）。

1968/9/20.

【学名】 *Cryptorhynchus lapathi*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），ゾウムシ科（Curculipidae）

【分布】 北海道，本州，九州；全北区（ユーラシア，北米）

【生態】

ポプラやヤナギ類の生立木に寄生する。

年1世代。幼虫は春から初夏に樹皮の内側や材の外側を食べて成長し、木くずを外に出す。幼虫の掘るトンネル（孔道）の断面は円く、直径4～6mm。7月に糸状の材片で俵形の部屋を作って蛹になる。蛹は夏に成虫になる。成虫は口で樹皮に穴を開け、樹皮下に卵を産む。卵は越冬後に孵る。成虫で越冬することもあり、この場合は翌春に産卵する。成虫は新芽を食害する。

【被害と防除】

主に幼木につくとされる。食害木は著しく衰弱する。完全防除は困難とされる。もっとも、近年、被害はまったく報告されていない。ポプラの造林がほとんど行われていないせいであろう。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

1994. 遠田暢男. ヤナギシリジロゾウムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集, 森林昆虫, 総論・各論: 231-232. 養賢堂, 東京. (形

態, 生態, 被害, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ヤナギシリジロゾウムシ zoumushi/yanagisi/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/19-12/15.

higai.JPG

「写真1」 上条一昭, 北海道立林業試験場, 1968.